



た実態から、これを脱却しようという動きがある。糸満はまだそういったツールリズムに走っていないから、選べる立場にある。これから自分の受け入れる観光を選べる立場にあるからすごく面白い展開になっている。糸満市としては、固定観念で今までやってきたことを覆して、今後もコミュニティのために、環境を破壊しない、本来の意味でサステイナブルな観光を心から信じてほしい。私もそういった方向で働いていきたいので、これからのチャレンジになる。

市長 観光というのは沖縄のリーディング産業ですよ。糸満というのは、今まで素通り観光と

いわれるぐらいの所だったが、民泊とか滞在型、体験型、農業や海の文化を体験するとか、自然を破壊するのではなく、あるものを体験させていくというのも非常に大切だと思います。私自身、県外の人を受け入れたときに、エイサーを教えてあげたりすると非常に喜ばれましたね。開発できるところはやらないといけないというのも正直ありますが、大切な部分はやはり自然を守りながらやらないといけないということです。

仲村 私はコロナ禍で海外への渡航が難しくなったので、先代理学療法士の資格を取得して、その資格を生かした仕事を海外で

出来ればなど考えています。地域の方をはじめ多くの人にサポートしてもらえた分だけ、恩返ししたいから嬉しいです。例えば、JICAなどでは、発展途上国での理学療法士の人材育成に貢献しているの、そういった職業で海外にチャレンジしたいと思っています。

提案みたいな形になるのですが、4月にくる糸満、夏にはリゾートホテルが開業して、糸満を魅了するものが増えると思う。ただ、コロナ禍という厳しい状況の中でも多くの人を呼びたいと思う。その際には、著名な方々を使って、ティックトックやインスタグラム、ユーチューブなどのSNSでコラボしてほしい。良くも悪くもとても大きな影響力があると感じているので。色々な年代がいると思うのですが、コラボすることによって、若い人たちに大きなアピールできると思っています。

市長 ティックトックというのは、若い世代はほとんど見ているわけだね。そこで糸満市のあらゆるところを紹介していく。若

い年代の発想というのは本当に面白いといつも感じます。

新垣 僕らが考えていないようなSNSを使った情報発信はすごく大切だと思います。市役所にも若い職員がいると思います。が、そういった人たちがプロジェクトチームを作っても非常に面白いと思います。若い人たちの共感を得られやすいと思うし、若い人の意見はやはり大切ですね。今回座談会に声がかかるまで恥ずかしながら糸満市第5次総合計画というのを知らなかった。コロナ禍だからこそ、物理的な距離はやはり遠くないといけないのですが、だからこそ人と人の思いであったり、気持ちというのは繋がりを深めて、かつ、一人ひとりが何かしらチャレンジできるまちというのは、僕の思いとも合致するというか、素晴らしいタイトルですね。

市長 本当に、先人や先輩たちが今まで築き上げてきた糸満市は魅力が多いと思います。これからもさらに磨きをかけて、文化協会や皆さんの力をもらいながら、いろいろな分野で活躍してい

る子どもたちが表敬に来てくれるのですが、本当に輝いて見えます。そういった子どもたちが、将来支えられた部分で社会人になった時に恩返ししたりね。本当に宝物だと感じます。

仲宗根 今の核家族的な、他所の人とは付き合い出来ないという

のが続く一番怖いのは、人付き合いの部分ですよ。仕事の難しさというのは教えられる程度についていけないけど、やはり人との付き合い方というのは、小さい頃から養われて培われてきたものが延長になっていくのでね。社会に出て、他者の中で生きていかなければならないときに、それが出来ないという人も多いですよ。そのような中で、自分が支えきれないように持久力、耐える力というのを学校卒業するまでに大人が養ってあげないといけないと感じます。先ほど話の出たバドミントンといった運動もそうだし、私でいうと三線もそうだし、とにかく人の輪の中で子どもを育てていくことが大切だと思います。

市長 子どもたちが自分を表

現させてもらえる環境というのが、言いやすい環境を作ってあげないといけないなとも思います。その点、音楽さんは素晴らしいなと思います。自分が同じ年代の時何していたかな。大人と堂々と話ができて素晴らしいと感じます。

ル 子ども議会とかやって面白くないですか。市長ってどういう役割を果たしているのか、議会って何？っていうのを大人に説明してもらうより1回体験してもらうほうがよっぽど興味が湧くと思うんですよ。やっぱり子どもの発想というのは面白いかと。

市長 子ども議会については、50周年記念の冠事業として開催を予定しています。

新垣 音楽さんの話も色々聞きたいのですが、今後はサッカー続けていくのですか？プロなどを目指して。

仲村 今、興南高校のサッカー部で、今後は社会人としてサッカーを続けていこうとは思っています。ドイツでサッカーを頑張っ

ている先輩がいて、その先輩を目標にして僕もセレクトション受けてオフアーもいただいたのですが今回キャンセルになってしまいました。プロというよりは英語とサッカーを、より厳しい環境に身を置いて追い込みたかったという思いがありました。

新垣 若い人のチャレンジをこのコロナが2年間抑えているというのが、損失ですよ。理学療法士を目指すということで、医療系でまた関わられたらいいですね。

市長 座談会にお集まりいただき本当にありがとうございます。ワードとして、「人と人のつながり」、未来を託せるような子ども達が順調に育っていて、社会に出たときに社会貢献できるような子や音楽さんのように糸満から世界に飛び出して色々経験して糸満に戻ってくるというのは、糸満が発展や変わっていくことに繋がるのかなと思います。

我々もずっと守るんじゃないってこれからの糸満市の為にいろいろな意見をもらいながら、またどう

いう形で進めていけるのか。先人たちの思いも込めて糸満市が発展できるよう取り組んでいきたいと思っています。人と人がつながって、支えあえるような環境づくり、コミュニティも含めて糸満市全体が魅力あるいい町になるような。それにはやはり行政だけではできないので、地域の方々、各種団体も含めてみんなの力が一つになった時に大きな力になりますのでそこを大事にしていきたいと思っています。

今後とも糸満市の発展のために皆さんのお力を貸していただきたいなと思っていますのでよろしくお願いします。

